

# 保険者基本情報及び実施率

【基本情報】	令和 4 年 3 月時点										
保険者名	全国健康保険協会東京支部										
保険者種別	協会けんぽ										
被保険者・被扶養者の人数／平均年齢	①-1 被保険者数 (全体)	3,874,297	人	①-2 被保険者数 (40～74歳)	2,354,442	人	①-3 被保険者 平均年齢 (全体)	—	歳		
	②-1 被扶養者数 (全体)	1,851,683	人	②-2 被扶養者数 (40～74歳)	517,553	人	②-3 被扶養者 平均年齢 (全体)	—	歳		
事業所数／自治体数	424,973										
特徴 (業種・業態・職種)	【業種・業態】					【職種】					
	中小企業を中心に全業種を対象					全職種を対象					

【実施率】	令和 4 年 3 月時点					
特定健康診査	被保険者	38.4	%	被扶養者	29.2	%
特定保健指導	被保険者	9.8	%	被扶養者	3.9	%

全国健康保険協会 東京支部	保健事業カルテ
事業名	ジェネリック医薬品使用促進

2021年度

背景	協会けんぽの財政について、①医療費の伸びが賃金の伸びを上回る赤字構造であること、②被保険者数の伸びが鈍化傾向にあり、かつ世界情勢の悪化等によって経済状況が不透明であることから、コロナ禍前のような保険料収入の増加が今後も続くことが期待できないこと、③令和5年度以降は後期高齢者支援金の増加による支出の増加が見込まれていることから、決して楽観を許さない状況にある。
対応する健康課題	生活習慣病や慢性疾患等で加入者の医療費が増加している中、加入者の健康維持・増進を目指しながら、自己負担額の軽減と医療費の適正化を実現するため、ジェネリック医薬品の使用率向上に務める。
事業目標	ジェネリック医薬品使用率：80%以上 (2021年6月18日閣議決定「経済財政運営と改革の基本方針2021」において、後発医薬品数量シェアを2023年度末までに全ての都道府県で80%以上とする目標が示された)

	対象者	方法	体制
2021年度の実施内容	切替による1か月あたりの自己負担軽減額が医科500円以上、調剤50円以上の加入者	差額通知の発送	協会本部において、通知の発送にかかる一連の業務を手配。 (外部事業者へ委託)

**対象とした医薬品の種別は明文化し、引き継ぐと有用です。**

指標No.	評価指標	目標値						実績値					
		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
アウトカム指標 (成果を測る指標)	1 切替率	-	-	-	-	-	-	25%	25%	27%	-	-	-
	2 使用率	80%	80%	80%	80%	80%	80%	74.7%	77.6%	79.2%	79.2%	-	-
	3 1か月あたりの軽減効果額	-	-	-	-	-	-	3.5億円	3.5億円	4.94億円	-	-	-

対応する指標No.	分類	やり方の工夫	工夫をした理由	良かった点・苦労した点
1.2.3	a.意識付け	ジェネリック医薬品にかかる基本事項等を記載したリーフレットを同封し、対象者のジェネリック医薬品に対する理解度促進につなげる。	ジェネリック医薬品に対する理解度の向上につなげるため。	-
1.2.3	b.行動変容支援	切替による効果（金額等）を見える化することで、切替の促進に努めている。	通知を受け取った対象者が、切替による効果をイメージしやすいように努めている。	-
1.2.3	e.その他	関係団体（医師会・歯科医師会・薬剤師会）への情報提供（通知サンプル・発送時期等）	医療関係者に事前の情報提供を行うことで、患者からの相談等に医療関係者が対応できるようにするため。	Good!
1.2.3	b.行動変容支援	令和2年度の通知対象者を18歳以上から15歳以上に引き下げ	使用率が低い年齢層になるため。	-

指標No.	評価指標	目標値						実績値					
		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
アウトプット指標 (実施率を測る指標)	1 差額通知発送数	-	-	-	-	-	-	90万件	93万件	98万件	37万件	-	-
	2 東京都内保険薬局向け「見える化ツール」の発送	-	-	-	-	-	-	-	6,373件	6,301件	-	6,389件	-

対応する指標No.	分類	やり方の工夫	工夫をした理由	良かった点・苦労した点
1	b.勸奨	例年、8月と2月に発送しているが、2021年度は供給不足等の現状から2月のみの発送となっている。	供給不足等の社会的影響を考慮したため。	-
2	c.環境整備	対象の保険薬局におけるジェネリック医薬品の処方人数や割合、二次医療圏平均や東京都平均との比較等を記載した、現状把握が可能なツールとなっている。	ジェネリック医薬品の使用促進に活用してもらうため。	薬剤師会へ通知サンプルや対象者を提示して意見をいただくことができた。
1	e.業務効率化	協会本部において専用のコールセンターを設置し、問合せ対応等にかかる業務量の適正化に務めた。入電率や問い合わせの内容については本部より連携あり。	発送件数が多く、問い合わせ等による業務の煩雑化を防ぐため。	-

評価指標の設定、実績値についてのコメント	<p>[健康課題の抽出と事業目標の明確化]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジェネリック医薬品使用促進の事業目標が明示されています。</li> </ul> <p>[評価指標（目標値）の設定と実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用率の向上につながる「切替率」をアウトカム指標に設定しているのは良い工夫です。</li> <li>使用率は経年で上昇しており、認知度の向上など事業が着実に進捗していることがうかがえます。</li> </ul>
----------------------	--

工夫についてのコメント	<p>[アウトカムを上げる知見]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業成果（アウトカム）が上がってきた背景に、加入者の意識醸成や医療供給側への丁寧な働きかけがあることがうかがえます。</li> <li>医療関係者に事前の情報提供（通知サンプルや時期等）を行うことで、患者からの相談等に医療関係者が対応できるようにすることは素晴らしい工夫です。</li> <li>所得が高い層で比較的使用率が低い構造を踏まえて、今後23区を重点対象とするのは有用と考えられます。</li> </ul> <p>[アウトプットを上げる知見]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>供給状況を確認しながら、社会環境に応じた弾力的な事業運営が行われています。</li> <li>「見える化ツール」は薬局の意識・行動変容を促す貴重なツールになっていると考えられます。今後、東京都医師会や病院薬剤師会にも情報提供など働きかけを進めていく予定とのことで、医療機関・関係者への啓発が期待されます。</li> <li>支部対応のハードクレームが減ってきたことは、ジェネリック医薬品の意義の理解が進んだことがうかがえます。</li> </ul>
-------------	--